
地球初の恋愛シミュレーション

ヨネ@ハイテンション

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

地球初の恋愛シミュレーション

【Nコード】

N2161E

【作者名】

ヨネ@ハイテンション

【あらすじ】

神様は退屈だった。退屈を紛らわせる為に人類を作ったはいいが、このアダムとイブのやつは、全く進展しやしない。こうなったらこの神様みずからラブラブにするしかないのだ！

神様は退屈をしていた。

イロんな動物を作ってみたけれど、どうにもこうにも面白みが足りない。

エキサイティングかつアグレッシブさが足りてない。

そうして神様の退屈を紛らわす為に恐竜が生まれた。

「うむ、恐竜はかつこいい。そして強い。だがしかし情緒が足りない！ 風情が無い！ 侘び錆なんてあるわけ無い！ ギャオー！ グオオオオ！ そんな鳴き声にも飽きた、飽き飽きだ！」

その次の日、恐竜は絶滅した。

恐竜にもう少し、こうなんて言うか、お茶をたてられる技能とか、気の利いたジョークなんかがあれば絶滅しなかったのかもしれない。ともかく、飽きっぽい神様は恐竜を絶滅させた。

まさか恐竜絶滅の理由がこんな事であろうとは歴史学者もビックリである。

かくして地球に恐竜がいなくなったわけなのだが、それはそれでつまらない。

そこで神様は考えた。

「そうだ！ 言葉を話す奴を作ろう。コミュニケーションが取れるタイプの奴ならば結構長く楽しめるに違いない」

そう思ったら即実行。

神様はその日に出来る事はその日のうちにするタイプなのです。

そんなこんなで生まれたのが『アダム』と『イブ』

何故こんな名前にしたのかつて？

「ばっかだなあ。あいうえおの順番にテキストに付けたんだよ！」
あダム いブ

神様は飽きっぽいだけでなくかなあ〜り適当だった。

「ばか者！ ファジーって言えばよ！ 柔軟な思考って言えばよー！」
コホン、神様はとってもファジーで柔軟な思考を持つ素敵なナイ
スガイだった。

「それでいいんだよ。だって神様だよ。自慢じゃないけど全知全能
なんだぜ！」

しかし、たつたの二人では種族は繁栄しません。

「まあまあそのうち子供を作り始めて、バンバン増えるに違いない」
神様は楽観的思考で待ちました。

しかし待てども待てども、イブは子供を産みません。

神様は気になって下界を覗いて見ました。

「あのさあ、イブ。今度二人でどこか景色の綺麗なところにも遊
びに行かないかい？」

「はあ？ 何で私があなたと二人きりで何処かに行かなきゃならな
いのよ」

イブはアダムを馬鹿にしたような表情で見据えると、そっぽを向
いて去って行った。

「あのお、二人きりもなにも、僕ら二人しか人類は居ないんだけど
……」

アダムはしょんぼりと肩を落として地べたに座り込むのだった。

「ダメだこりゃ！ アダムへたれすぎだよ。俺がイブだったとした
ら顔面に唾の一つでも吐きかけてやるところだ」

そうは言ってみたものの、このままではせつかく作った人類が一
代限りで絶滅してしまう。

わざわざ3時間半もかけてつくった人類なのに、絶滅してしまっ
たらもつたない。

「こうなったら全知全能の神の力でこの二人をめたくラブラブカ
ップルにしてやろうじゃないか！」

こうして神様の、人類の存亡をかけた地球初の恋愛シミュレーシ

ヨンがスタートしたのだった。

ゲームスタート

このアダムと言う男は女心がまるでわかっておらん。私にかかれば女心などお茶の子さいさいだ！

神は豪語しました。

「あのさイブ、これ受け取ってもらえるかな？」

アダムは両手いっぱいの花束をイブに差し出した。

花で落ちない女はいない！

「えっ、これを私に？」

「うん、君のために綺麗な花を集めてきたんだ。でもさ、君の方がもっと綺麗だよ！」

決まった。

この台詞で女はクラツときたはずだ。

いや、こないはずがない！

みる、この無言の間、これこそイブが照れて赤面しているからに違いない。

神は勝利を確信しました。

「アダム、私のためにそこまで……ってバツカじゃないの！」

えっ？

「花なんて食べても美味しくないもの集めてくるより、美味しい食べ物でもとってきてよね！ほんと使えない男ね」

イブはそう言うと花束を投げ捨てた。

な、なんだと！花が通じないだと！

花より食い物だというのか！

メモしておこう。

神様はメモを取った。

花より団子と言っ言葉はこの時に生まれた。

「そんなに怒らないでくれよ。こ、今度は湖で魚でも取ってくるからさあ」

「そうだ、食べ物をとってきて与えればこの女は落ちる、間違いない。」

神様はまたしても勝利を確信しました

「その湖でおぼれて死ね！」

「し、死ねだと……まがりなりにもこの神様があやつるアダムに向かつて死ねだと！」

「お前こそ殺してやるう！」

アダムは己の怒りに身を任せてイブの首を絞めました。

「く、苦しい……」

イブは死にました。

一人取り残されたアダムは寂しい生涯を終え、人類は繁栄しました。

ゲームオーバー

「ファツキン！ なんでだ！ なんでなんだあ！ ちつくしようめえ、コンティニューだ、コンティニュー！」

神様はさっきの事はなかった事にして、またアダムとイブを作り直しました。

「よおし、次こそは、次こそはイブとラブラブになり人類を繁栄させてみせるぜ！」

鼻息も荒々しく神はゲームをスタートさせました。

さっきはあれだ、男の優しさをアピールして失敗した。

今度は男らしさをアピールしてやる。

「やあイブ！ どうだい、これ俺がさつきしとめてきた獲物なんだけど」

そう言っただけでアダムは大きなサーベルタイガーをイブの前に差し出した。

「す、凄い。これ一人で倒したの？」

「おいおい、人類は僕と君しかいないんだよ。必然的に一人に決まってるじゃないか」

確かに正論である。

「そう言えばそうだったわね。とにかく凄いわアダム、あなたがこんなにたくましかったなんて私知らなかったわ」

キタキター！

ふふふ、女はたくましい男に弱い。

勝ったな、これはもう勝ったも同然だな。

「イブはたくましい男・・・好きかい？」

「ええ、私たくましいの大好き！ たくましくてそれでいて毛深くて、暴れん坊で、荒々しいのが大好きなの！」

イブはそう言っただけで頬を赤らめさせた。

これはもうこのまま子作りが開始されてもおかしくない。

ふふ、これで人類は繁栄するのだ。

「そう！ 私、ゴリラが大好きなの！」

えっ？ ちょっと待て。

「私、荒々しくて、たくましくて、毛深くて、ウツホウツホって叫ぶゴリラが大好きなの！」

キャツ言っちゃった。

イブは頬に手を当て、顔を右に左にと振り、可愛いポーズを決めた。

な、なんなんだこの女は・・・

こんな頭のおかしい女誰が作ったんだ。

それは私です。神様です。

「じゃ、そう言う事だから」

「ちょ、ちょっと待ってええええええ」

アダムという言葉もむなしく、イブは森の中へと消えていった。

理想のゴリラを探しに……

数年後、ゴリラと人間のハーフが生まれ、ゴリ人間が繁栄する
ばらしい世界が生まれましたとき。

バッドエンド

「うおおおお、なんなんだよ。これおかしいよ！ 明らかにおかしいよ。なに！ アダムの立場は何よ！ こいつゴリラに負けちゃうわけ？ そんなでゴリラ人間ってなんだよ！ 俺そんな生物作った覚えはないよ！」

まさか創造主の予想の斜め上に行く展開になるうとは、全知全能であるはずの神もビックリだ。

「まだまだ！ こんなもんでこの神様が引き下がってたまるか！ 意地でもイブちゃんとラブラブになってチュッチュッしてやる！」

神様は段々趣旨が違ってきている事に気がついてはいませんでした。

ゲームスタート

物で釣るのもダメ、たくましいのもダメ。

そうなる……

「イブちゃん、いや、イブ様！ この僕ちゃんと、哀れなアダムと付き合ってください！」

アダムは号泣しながらイブの足にしがみつき哀願した。

「な、何よいきなり」

「僕は、僕は、君無しでは生きていけないんだ！ 君は僕の全てな

んだ、お願いだ、お願いだよおお」

泣き落とし、これが神様の考えた作戦だった。

男は涙を見せぬもの、しかしあえて涙を見せる。

これがポイントだ。

あの人は私の前だけ自分の弱さをさらけ出してくれる。

もう、しょうがないんだからっ。

私が守ってあげないと。

そして母性本能をくすぐる、くすぐりたおす！

完璧だ、完璧とかいてパーフェクトだ。

「こんな恥ずかしい姿を見せるのは君の前だからなんだよ！」

「そりゃそうでしょうよ、人間は私とあんただけしかないんだから」

はっ！ そうだった。

「こんなに情けないなんて、もう人間なんてダメね、やっぱりゴリラよ！ ゴリラが一番なのよ！ マイスweetダーリンはゴリラで決まりなのよ！」

ちよつと待て、またか、またゴリラルートなのか！

イブは足にしがみつくアダムに蹴りを5、6発くらわせたあと、さらに顔面にビンタを約12発くらわせ、さらにさらに唾を吐き掛け、軽蔑の表情でアダムを数秒見据えると、そのまま森へと消えて行った。

こうしてゴリラと人間のハーフが誕生し……

バッドエンド

「っておい！ どうなってんだよ。またゴリラかよ！ 男の涙よりゴリラのウツホウツホかよ！ この女どんだけゴリラが好きなんだよ。変態か？ 変態なのか？」

いけない、このままではどうあがいてもゴリラルートにしか行かないような気がする。

こうなったら発想の転換だ！
やってやる、俺はやってやるぜ！

ゲームスタート

「イブ！ 僕はもう君の事なんかどうでもいいんだ！」

そう、あえてイブを突き放してみせる、これだよ、これ！

「な、何よいきなり」

「さようならイブ！」

アダムはそのまま森の中へと消えていった。

こうしてアダムは森の中でチンパンジーと結ばれ、チンパンジーと人間のハーフであるチン人間が生まる。

イブはイブで、あいもかわらずゴリラと結ばれ、ゴリ人間が誕生する。

数百年後、二つの部族は対立しあい、戦争状態へと突入するのであった。

バッドエンド

「あああああ、もうわけわかんねえよ！ チン人間ってなんだよ！

隠しキャラかよ！」

神様は頭を抱えた。

ダメだ！ こんなことで負けてちゃダメだ！ 俺ファイト！ 神

様は負けちゃいけないのよ！

神様は夕日に向かって叫んだ。

「夕日のバツキャロー！」

いきなりバカ呼ばわりされて夕日はおかんむりだった。

「もうこうなったら、最後の手段を使うしかない」

ゲームスタート

「イブ、イブ、イブウウウウ、ええやる、なあ、ええやるお」
アダムはそのままイブの身体に覆いかぶさる。

「な、なにすんのよ、重いよ、のいてよ！」

イブは跳ね除けようとするが、体重差のせいもあり、うまくいかない。

「なあなあ、一回だけや、一回だけでいいから、ええやる、なあええやるおお、おねがいやあ、一回だけさせてんかああああ」

これが神様の言う最後の手段だった。

もう、これしかないんや！ これしかないんやでえ！

なぜ関西弁なのか、これは関西人に失礼ではないのか？

などの疑問が生まれたが、人類が2人しかいない以上、関西も関東もないのでよしと言う事にしてもらおう。

「このおおお、バカ男があ！」

イブは思いつきりアダムの金的を蹴り上げた。

「うおおお」

アダムはもんどりうってのた打ち回る。

「あれよね、そんなものがついてるから、いけないのよね。そんなものなくなればいいのよね」

イブは鬼の形相でアダムの下半身を睨みつけると、アダムの下半身のアレを×××した。

「うっふう〜ん、もうイブちゃんたらあ」

アダムは見事に人類初のオカマになった。

こうして人類から男が消えてなくなり、毎度のパターンではあるが、イブはゴリラと結ばれゴリ人間が誕生する。

アダムがどうなったかは、語りたくもないので割愛する事とする。

バッドエンド

「なるほど」

神様は意味もなく納得した。

「こうなったらゴリ人間の世界でも、もういいじゃないか、それが運命とかいてさだめだったに違いないんだ。そうだ、そうしよう、そうしてしまおう」

と、開き直りかけた神様ではあったが、すんでのところでもちなおした。

「初志貫徹！ やっぱだめ！ ゴリ人間はダメ！ ってか俺はハッピーエンドを見たいんだ！ こうなったら、あれをするしかない！」

ゲームスタート

「イブ、僕は君のことが好きだ」

「アダム、私もあなたのことが大好きよ」

「結婚しよう」

「結婚しましょう」

こうしてアダムとイブは抱きしめあった。

『これだけはやりたくなかった』

神様は、しょんぼりとうつむきかげんでつぶやいた。

神様が何をやったかと言うと。

アダムとイブの両方をあやつつての無理やりハッピーエンド。

つまり『ずる』をしたわけだ。

アダムとイブはお互いの自然の意志などとは無関係に愛をはぐくむ事となった。

こうして、愛など存在しない二人は子供を作り、人類が繁栄する事になるのだ。

「はてさて、偽りの愛で生まれたこの人類。いつまで繁栄することやら………。まあいいか、ダメそうだったらまた消してやり

地球初の恋愛シミュレーション

直せばいい事だし。その時はゴリ人間でもつくってみるかあ」

ハッピーエンド？

おしまい

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくは PDF 小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2161e/>

地球初の恋愛シミュレーション

2009年4月13日23時06分発行